

## 安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名 : 変性エタノール  
 会社名 : 関東化学株式会社  
 住 所 : 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-2-1  
 担当部門 : 電子材料事業本部 技術部  
 電話番号 : (03)6214-1080  
 F A X 番号 : (03)3241-1043  
 メールアドレス : el-info@gms.kanto.co.jp  
 整理番号 : GE00018

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

##### 物理化学的危険性

引火性液体 : 区分2  
 自然発火性液体 : 区分外  
 自己発熱性化学品 : 区分外

##### 健康に対する有害性

急性毒性（経口） : 区分外  
 急性毒性（経皮） : 区分外  
 皮膚腐食性・刺激性 : 区分外  
 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分1  
 発がん性 : 区分1 A  
 生殖毒性 : 区分1 A  
 特定標的臓器/全身毒性（単回暴露）

: 区分2、 区分3（気道刺激性）、 区分3（麻酔作用）

特定標的臓器/全身毒性（反復暴露）

: 区分1、 区分2

##### 環境に対する有害性

水生毒性（急性） : 区分外  
 水生毒性（慢性） : 区分外

#### 絵表示またはシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 引火性の高い液体および蒸気  
 重篤な眼の損傷  
 発がんのおそれ  
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
 中枢神経系、全身毒性の障害のおそれ

呼吸器への刺激のおそれ  
 眠気およびめまいのおそれ  
 長期または反復暴露による肝臓の障害  
 長期または反復暴露による血液、中枢神経系の障害のおそれ

注意書き

安全対策

: 取扱い注意事項をよく読み、理解してから取り扱う。  
 熱、火花、裸火などの着火源から遠ざける。  
 容器は密閉する。  
 移送、攪拌する場合は、容器および受器をアースする。  
 防爆型の機器を使用する。  
 火花を発生しない工具を使用する。  
 粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しない。  
 換気の良い場所でのみ使用する。  
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしない。  
 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面、保護マスクなどを着用する。  
 取扱い後はよく手を洗う。

救急処置

: 吸入した場合：新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪いときは、医師の処置を受ける。  
 眼に入った場合：流水で数分間洗い流す。医師の処置を受ける。  
 皮膚に付着した場合：汚染された衣類および付着物を取り除く。皮膚を流水で洗う。直ちに医師の処置を受ける。  
 暴露した場合：医師の処置を受ける。  
 気分が悪いときは、医師の処置を受ける。

保管

: 容器は密閉して換気の良い場所で保管する。  
 施錠して保管する。

廃棄

: 内容物や容器は関係法令に基づき適正に処理する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

: 混合物

成分及び含有量

: エタノール 約85%  
 2-プロパノール 5%未満  
 1-プロパノール 約10%

化学特性（示性式）

: エタノール  $C_2H_5OH$   
 2-プロパノール  $(CH_3)_2CHOH$   
 1-プロパノール  $CH_3CH_2CH_2OH$

官報公示整理番号

化審法

: エタノール 2-202  
 2-プロパノール 2-207  
 1-プロパノール 2-207

安衛法

: エタノール 公表  
 2-プロパノール 公表  
 1-プロパノール 公表

CAS No.

: エタノール 64-17-5  
 2-プロパノール 67-63-0

1-プロパノール 71-23-8

危険有害成分 : エタノール、2-プロパノール、1-プロパノール

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪いときは、医師の処置を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類および付着物を取り除く。皮膚を流水で洗う。気分が悪いときは、医師の処置を受ける。
- 目に入った場合 : 流水で数分間洗い流す。医師の処置を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐ。無理に吐かせない。直ちに医師の処置を受ける。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、水噴霧、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤 : 普通の泡消火器
- 特定の消火方法 : 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。  
初期の火災には、粉末・二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には、耐アルコール性の泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。露出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を及ぼさないように注意する。
- 回収、中和 : 漏出源を遮断し、漏れを止める。少量の場合は、乾燥砂、土、おがくず、ウエスなどに吸収させて、密閉できる空容器に回収する。大量の場合は、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
- 二次災害の防止策 : 発生するガスは霧状の水をかけて吸収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
  - 技術的対策 : 皮膚に付いたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。火気厳禁。  
作業場所の換気を十分行う。  
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。  
静電気対策のために、装置、機器等の接地を確実にを行う。  
電気機器類は防爆型（安全構造）のものを用いる。
  - 注意事項 : 密閉された装置、機械、または局所排気装置を使用する。
  - 安全取扱い注意事項 : 酸化剤と接触させない。
- 保管
  - 適切な保管条件 : 容器は密栓して冷暗所に保管する。火気、熱源より遠ざける。  
酸性物質と一緒に保管しない。

安全な容器包装材料 : ガラス、SUS

#### 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

管理濃度 : エタノール 設定されていない  
 2-プロパノール 200ppm  
 1-プロパノール 設定されていない

#### 許容濃度

日本産業衛生学会 (2016年度版)

: エタノール 設定されていない  
 2-プロパノール 400ppm, 980mg/m<sup>3</sup>(上限値)  
 1-プロパノール 設定されていない

ACGIH (2015年度版)

: エタノール 1000ppm(TLV-STEL)  
 2-プロパノール 200ppm(TLV-TWA)  
 2-プロパノール 400ppm(TLV-STEL)  
 1-プロパノール 100ppm(TLV-TWA)

#### 保護具

呼吸器用の保護具 : 防毒マスク (有機ガス用) または送気マスク

手の保護具 : 耐溶剤手袋

眼の保護具 : ゴーグル型保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 : 保護衣 (長袖作業衣)、保護長靴、保護服等

#### 9. 物理的及び化学的性質

形状 : 液体  
 色 : 無色  
 臭い : 芳香  
 pH : データなし  
 沸点 : データなし  
 融点 : データなし  
 引火点 : 14.1℃  
 発火点 : データなし  
 爆発特性  
 爆発限界 : データなし  
 蒸気圧 : データなし  
 蒸気密度 : データなし  
 密度 : 0.79g/cm<sup>3</sup> (20℃)  
 溶解性  
 溶媒に対する溶解性 : 水 ; 自由に混合

#### 10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常条件で安定である。  
 反応性 : 酸化剤と接触すると反応することがある。  
 避けるべき条件 : 日光、熱  
 混触危険物質 : 酸化剤

危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素

#### 11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 : 区分外  
 経皮 : 区分外  
 吸入 (蒸気) : データ不足のため分類できない  
 吸入 (粉塵・ミスト) : データ不足のため分類できない

皮膚腐食性・刺激性 : 区分外

眼に対する重篤な損傷・刺激性 : 重篤な眼の損傷 (区分1)

呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 呼吸器感作性 : データ不足のため分類できない  
 皮膚感作性 : データ不足のため分類できない

生殖細胞変異原性 : データ不足のため分類できない

発がん性 : 発がんのおそれ (区分1A)

生殖毒性 : 生殖能または胎児への悪影響のおそれ (区分1A)

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露 : 中枢神経系、全身毒性の障害のおそれ (区分2)  
 呼吸器への刺激のおそれ・眠気またはめまいのおそれ (区分3)

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露 : 長期または反復暴露による肝臓の障害 (区分1)  
 長期または反復暴露による血液、中枢神経系の障害のおそれ (区分2)

吸引性呼吸器有害性 : データ不足のため分類できない

#### 12. 環境影響情報

生態毒性

魚毒性 : 水生毒性 (急性) : 区分外  
 水生毒性 (慢性) : 区分外  
 水生生物に低毒性である。

残留性/分解性 : 微生物などによる分解性が良好と判断される物質である。

#### 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : スクラバーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。

容器 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

#### 14. 輸送上の注意

国内規制

消防法 : 危険物第4類引火性液体アルコール類水溶性液体

道路法 : 施行令第19条の13 (通行制限物質)

船舶安全法 : 危規則第3条危険物告示別表第1引火性液体類

航空法 : 施行規則第194条危険物告示別表第1引火性液体類

国連分類 : クラス3 (引火性液体) 等級II

国連番号 : 1993

